

流れ星を観よう！

2020年4月22日 4月こと座流星群が極大

4月22日、4月こと座流星群の活動が極大となる。22日深夜から23日明け方が見ごろだが、数は少ない。

4月22日、4月こと座流星群の活動が極大となる。極大時刻は夕方16時ごろと予測されているので、放射点が高くなる22日深夜から23日明け方にかけてが見ごろとなる。

23日が新月なので月明かりの影響はまったくないという好条件だ。とはいえ、流星数が多い群ではないので、見晴らしが良いところでも1時間あたり5~10個程度とみられる。まれに大出現することもあるので、春から初夏の星座を眺めながら少し気にかけてみる、くらいの気楽さで流れ星を待ってみよう。明るい流星の割合が高く火球も少なくないため、目にできれば印象に残るだろう。母天体はサッチャー彗星。



2020年5月6日 みずがめ座 η 流星群が極大

5月6日、みずがめ座 η 流星群の活動が極大となる。5月6日未明から明け方が見ごろ。

5月6日、みずがめ座 η (エータ)流星群の活動が極大となる。極大時刻は朝5時ごろと予測されており、6日の未明から明け方が流れ星を見やすいだろう。

満月前の明るい月がほぼ一晩中夜空を照らすため、条件は良くない。予想される数は1時間あたり5~10個程度とみられる。流れ星は空全体に飛ぶので、月から離れた方向を中心に広く空を見渡そう。

みずがめ座 η 流星群は毎年ゴールデンウィークの終わりごろに活動する流星群で、速度が速いのが特徴だ。ハレー彗星の通り道を地球が通過し、そこに残されていた塵が地球の大気に飛び込んで、上空100km前後で発光して見える現象である。



金星を見つけよう

宵の明星

金星は2019年11月ごろから2020年5月ごろまで、「宵の明星^{みょうじょう}」として見えています。夕方から宵のころに西の空でひととき明るく輝いているので、一目でそれとわかります。

3月上旬から4月中旬ごろまでは、日の入りから1時間後(東京で19時ごろ)の高度が30度を超えているので、とくによく目立ちます。西日本では22時を過ぎてもまだ地平線上にあり、思った以上に遅い時間帯まで金星が見えるかもしれません。

形が変わる金星

地球・金星・太陽の位置関係により、金星は月のように大きく満ち欠けして見えます。また、月と異なり、金星は見かけの直径も大きく変化します。形や大きさの変化は肉眼ではわかりませんが、倍率が高めの双眼鏡や天体望遠鏡で見るとよくわかります。天体観察会などに参加して、欠けた姿をぜひ観察してみてください。

金星に関する諸現象: 細い月と共演/木星・土星、「すばる」と大接近

およそ1か月に1回くらいのペースで、金星と細い月が並んで見えることがあります。金星の輝きはそれだけでも美しいものですが、地球照(地球で反射した太陽光に照らされ、月の暗い側がうっすら見える現象)を伴った幻想的な細い月と金星が夕空に並ぶ光景は、さらに見事な眺めとなります。金星と月の接近は肉眼でもよく見えますが、双眼鏡があるといっそう美しさが際立って感じられることでしょう。

また、金星と、木星や土星、プレアデス星団「すばる」との大接近も起こります。最接近のタイミングだけでなく、その前後の日で並び方が変化していく様子も楽しみです。

地上風景も入れた写真撮影にも、ぜひ挑戦してみてください。空の色や雲の形、街明かりの様子は刻一刻と変わっていきます。シャッターチャンスを見逃さず、共演を記録してみましよう。



4月26日と27日、細い月と金星がやや離れて並ぶ([ステラナビゲータ](#)で星図作成)